

進路だより



2017 秋・冬号

2017(平成29)年 12月 22日 発行

仮設のなかの本当の教育

進路指導部長 加藤淳

1,722人。この人数は仮設校舎で私が進路指導部長として関わった3年生の人数です。もうずいぶん年をとってしまって、卒業生が訪ねて来てくれてもなかなか名前が出てこないことが頻繁にあります。ただ、進路室にはたくさん訪ねて来てくれた先輩方の写真が貼ってあります。中には、すでに就職したところを辞めてしまった子もいますし、結婚をしてパパやママになっている子もいます。中には、学問を追求して国立大学の大学院にまで進んでいる子もいます。みんなそれぞれの道に進みますけれども、どの学年にも共通して言えることは、**高校生最後の1年間の進路決定に向けた頑張り**に手を抜いた子はなかったということです。これは、進路指導部長として本当にうれしいことですし、そのような先輩方の頑張りの一つ一つが今の宮農の良い評価につながっているのです。

私が、進路部長の話をお願いしたのは、2011年3月11日の午後1時45分でした。あの地震の1時間ほど前のことでした。当時の校長先生からお話をいただいて、返事は後程ということで、仕事に戻ったことを覚えています。その後、私から「お引き受けする」とも「お断りする」とも返事をしないまま、新年度が始まりました。当然のように進路指導部長としての新年度でした。進路指導部の先生方や当時の3学年主任の菅井先生に本当に支えていただきながら、会社を回って被災の状況を確認したり、採用のお願いをしたりと部員全員が必死でした。『藁にもすがる思い』というのはまさにこのことをいうのだと思いました。今では、進路ガイダンスを当たり前のように教室ごとに分かれてやっていますが、

その年の進路ガイダンスは1回だけ。しかも集まれる校舎がないのですから、仕方なく仙台駅近くの会議室を借りて、3年生がそこに各自集まってくるという形でした。それでも震災後初めての学年集会がそこでできたのを覚えています。ですから、9月になってプレハブ校舎に全学年が集まった時はやっと全体指導ができるという喜びでいっぱいでした。今でも続いている就職出陣式も最初はその年の9月でした。「みんな頑張れ」という思いを全員が持っていました。

あれから7年近くが経ち、このプレハブ校舎は私たち職員や在校生の中では間違いなく本当の学び舎になっています。ここで行われている学習や実習、行事、部活動などの活動は皆さんの充実した経験になっています。そして、学校をずっと見守り支援してくださった方々や進学先、就職先の皆様に認めていただけるようになってきました。皆さんはぜひこのことを嬉しいと思ってください。

このプレハブ校舎を去る日は刻々と近付いてきています。新しい宮農のスタートだと私を含めて喜んでいますが、実は新しい宮農はプレハブでスタートしているのです。新校舎では仮設校舎で培ったことを発展させていかなければなりません。これは大変です。進路指導部は今からかなり緊張しています。立派な校舎が完成したことで今度はその中に入る生徒達や職員は新しい目で評価されるからです。

みなさん、この7年間この仮設校舎で作上げてきた新しい宮農の姿はなかなか素晴らしいものだと思いますよ。あと数か月のプレハブ生活をしっかり仕上げましょう。そして、ぜひこれからの皆さんの進路が明るくなるような学校生活を送っていきましょう。



恒例の必勝鉢巻を付けて気合い注入！！



就職出陣式

～9月13日～



今年度の進学状況

進路指導部(進学担当) 町田由起子

今年度の三年生のうち、進学希望は98名。昨年に引き続き、ここ数年では多めになっています。現在、約87%の進学先が決定しています。この原稿を書いているのは11月末ですが、今まさに受験中の生徒、これから受験の生徒もいます。進路決定者の内訳は、四年制大学が16名、短大が12名、農業大学校が12名、その他高技専・専各学校が45名となっています。

また昨年度と同様に、全ての校種において「AO入試」を受ける生徒が多くなってきています。AO入試のメリットとしては、自分の意欲を評価してもらえる、評定平均等の条件がない、合格が早く決まる、などいろいろ挙げられますが、面接練習をしていつも思うのは、「何を勉強したいか」はそこそこ言えても、「その学校で何を学べるか、どんな学生が求められているか」をしっかり掴めてないなあ、ということ。進学を希望する人は、自分の行きたい学校のことをよく知っておいてください。あなたの将来を左右する、大事なパートナーになるのだから。

1学年就職支援担当教員講話

1月22日(水)3時間目に1学年進路講話として、就職支援担当教員である佐藤充幸先生よりお話をいただきました。

はじめに企業の役割、大企業・中小企業の区分、ビジネスなどについて説明していただいた後、多くの生徒が関心をもつ、今年の3年生の就職状況についてお話しいただきました。また内定者の状況をふまえて、先輩たちがどのような業種・職種に進んでいるのかを、具体的なデータとともに解説していただきました。資格取得の重要性を説かれるとともに、マズローの欲求5段階説を例に、我々人間は欲求の最後として自己実現を欲することを紹介されました。しかし大きな目標を立てたとしても、努力無しに自己実現はないことを話されました。

そして最後に、①前向きな考え方で過ごす。(積極的な行動)②考える習慣(自分で調べて解決しようとする習慣)を身につける。③授業・部活動・委員会活動・清掃等クラス内の仕事などに真剣に取り組むことを強調して講話を閉めました。1年生の皆さん、日々の生活からすでに進路活動は始まっています。意識を高くもって過ごしていきましょう。

1学年で進路ガイダンス実施

1月8日(水)の3・4校時に、1学年進路ガイダンスが行われました。今回の進路ガイダンスは体験型模擬授業として、公務員を始め福祉介護、動物、理美容、ファッション、情報処理、自動車など様々な職業体験別コースに分かれて実施されました。これらの体験別コースでは、担当講師の説明に生徒一人一人が熱心に耳を傾け、かつ真剣な眼差しで各職業体験に取り組んでいました。進路指導部としては、今回の進路ガイダンスでの体験が皆さんの進路実現の一助になってくれることを大いに期待しています。

体験型模擬授業の風景



今年度の求人・就職内定状況

進路指導部 就職支援担当教員 佐藤充幸

今年の3年生の就職活動は、いわゆるバブル景気以来といわれる大変好調な経済活動を背景にスタートしました。各企業等の求人・採用活動も大変活発であり、これに応じて宮農生も大いに健闘し、昨年同様大きな成果を上げていることは大変喜ばしい限りです。

さて、就職試験は9月16日から全国一斉に始まり、当校からはこれまでに就職希望者129人の内125人が内定しました(内定率96.9%)。また公務員試験では5人(自衛官候補生2人、一般曹候補生2人、宮城県警察官1人)が合格しました。なお、内定した企業等は計99社に上ります。(平成29年12月4日現在)

内定業種は多い順に「卸売業・小売業」(31社:31%)、「製造業」(25社:25%)、「サービス業」(22社:22%)、「運輸業」(8社:8%)、「建設業」(7社:7%)、「医療・福祉業」(6社:6%)となっています。

主な内定職種は「製造職」(37人:33%)、「販売職」(31人:27%)、「サービス職」(15人:13%)、「倉庫7人、配送等4人」(11人:10%)です。「事務職」には8人が内定しました。今年の傾向は好景気による活発な生産活動、都市再開発などに伴う建築・土木等の建設需要、そして高まる一方の介護需要などに対応するための人材が不足する状況が顕著であり、大企業・中小企業を問わず二次募集(追加募集)の求人が多く見られたことです。しかしこういう状況はいつまで続くかわかりません。1・2年生は浮かれることなく学習や部活動に励むことは勿論のこと、各種資格等の取得にも一層力を入れて将来への備えを万全にすることを望みます。

